

社会デザイン学会
ファイナンシャル・インクルージョン研究会

文献紹介 No. 1

『最底辺のポートフォリオ—1日2ドルで暮らすということ—』
J・モーダック、S・ラザフォード、D・コリンズ、O・ラトフェン著
大川修二訳、野上裕生監修
(みすず書房、2011年、315頁)

田中 和夫 (ファイナンシャル・インクルージョン研究会 代表)

「最底辺のポートフォリオ」は、一人1日2ドル以下で生活する貧困国の貧しい人々がどのようにして一家の「金融・財政」を運営しているかを詳細に記述しており、下記の章から構成されている。

- 第1章 貧困者のポートフォリオ
- 第2章 骨の折れる日々
- 第3章 リスクに処する
- 第4章 コツコツと積み上げる—まとまった資金を作る方法
- 第5章 お金の値段
- 第6章 マイクロファイナンス再考—グラミンIIダイアリー
- 第7章 よりよいポートフォリオへ
- 付録1 ポートフォリオの裏話
- 付録2 ポートフォリオ抜粋

各章毎の内容の説明は、監修の野上祐生氏が巻末の「解説」に纏めているのでそちらに譲りたい。

第1章から第7章を通じて、貧困者たちが家族の生活の前に立ちはだかる障害を乗り越えるために、貴重な時間を費やして多様な金融手法を駆使して一家の生活を支える様子が生き生きと描かれている。貧困者が実行する金融手段は最適ではなく効率が悪いように見えることがしばしばあるが、聞き取り調査と詳細な分析を進めていくと深い意味をなしていくケースが多く紹介されている。開発問題を専門とする人のみならず、貧困削減・マイクロファイナンスに関心を持つすべての人、また金融を専門とする人にとっても貧しい人々の金融行動から学ぶべき点は多い。

学術的な方法論や研究の根底にある理論の多くは、付録1で述べられている。さまざまな分野の専門家の共同研究の成果であり、分析方法は経済学的なアプローチと民族誌的アプローチとの融合とも言えると述べている。また、「貧困と金融」というテーマでの研究として、当時急速に発展を遂げつつあった行動経済学の理論も反映させている。付録2

では調査対象となった家族のうち15の事案のキャッシュフローデータとその家族の生活実態が詳細に記述されている。

まず、「ポートフォリオ」と「ファイナンシャル・ダイアリー」について、内容の紹介と考察を行いたい。

「ポートフォリオ」と「ファイナンシャル・ダイアリー」

書名の一部となっている「ポートフォリオ」とは、一般的には書類や写真を入れて運ぶ平らなケースのことを指す。別途、金融用語として投資家がリスク管理のために資産を複数の金融商品に分散させて投資することから、その金融商品の組み合わせのことを「ポートフォリオ」と名付けている。本書においても貧困者が運用する金融取引の種類や組み合わせを主題としていることから、書名となっている。貧困家庭が活用する金融形態とその組み合わせの分析と、そのポートフォリオを構成するに至る貧困者の行動やコメントの分析から、彼らの行動理由と方法を解明し、そこから導き出される、あるべき金融機能と構造を描き出すのが本書の主要テーマである。

字が書けず読めず計算も満足にできない人達が、家族の生命に直結するようリスクの波を柔軟に受け止め、乗り越えていくために必要な金融知識を生活の中で自然と身につけて、結果として極めて複雑なポートフォリオを構成していることが明らかとなってくる。彼らが活用している金融取引のポートフォリオは、先進国の金融サービスの品揃えに比べても遜色なく、あるいは顧客のニーズに強く裏付けられているという点において内容的に先進国の人々のそれを上回っているとも思える。

「ファイナンシャル・ダイアリー」は、研究者である著者の4人が貧しい家庭の家計と金融の実態を把握する手法として、この方法論を策定して調査を実施した。最初の調査は、1999年から2000年にバングラデシュの42世帯を対象として実施しダイアリーを編集した。2000年にはインドの48世帯で実施し、そして2004年に南アフリカの152世帯でダイアリーを収集した。

著者は、「**金融の本質は時間とお金の関係性**であり、金融を真に理解するためには時間とお金の両方を同時に観察すべきだ」と述べて、ファイナンシャル・ダイアリーの背景にある基本コンセプトを説明している。

調査対象とした貧しい家庭を、2週間おきに1年間継続して訪問し、前回訪問時以降に発生した収入・支出そしてフォーマル・インフォーマルを問わず全ての金融取引の種類や金額を聞き取り、そこで得られた他の情報とともに「ダイアリー」に詳細に記録する。1世帯を調査単位として各世帯別に簡便なバランスシートのような体裁で金融資産と金融負債に区分して記録する。金融資産は預金・保険・出身地の家族への送金・貸付・インフォーマルな種々の預金・商品売掛金から手持ち現金等に区分して金額を記載し、金融負債としては、マイクロファイナンスローン・貸金業者・親類・友人を含むインフォーマルな借入金・給与の前借り・日用品購入店主からの信用買い（つけ）・未払い家賃等を含む。2週間ごとの継続的な対話を通して家庭の全ての収入と支出に関わる資金繰り及び金融取引の実態把握に取り組み、並行して対象家族の家族構成と生活実態、職業及びアルバイト等臨時収入、性格・健康状態その他を継続的に記録し、分析し、金融取引の実行理由もその背景に至るまでヒアリングし、記録した。

南アフリカでのケースでは、2週間間隔の訪問を3ヶ月間継続したところで（6回の訪問）、全ての家庭でバランスシートの「矛盾点」が限りなくゼロに近づき初めて全貌を把握できていると信じるができるようになった。

家庭のプライバシーに踏み込んだ調査への協力を取り付けることの困難さは容易に想像できる。通常この種の調査を実施する場合は、聞き取り調査をするとしても1回きりの調査で済ませて、時系列での変化を調査する場合でも相当の間隔を開けて行う場合が大半である。そして、旧来の大方の調査研究では、前回調査時のデータとの「矛盾点」の多くは無視されてきた。本書は、ワンショットの情報収集で貧困家庭のデータを分析・研究する人々に対する強い警鐘を鳴らしている。

貧しい人達の金融行動の特徴と背景

ファイナンシャル・ダイアリーに基づく調査データの分析から、対象となった貧困家庭たちの金融行動は概ね下記に纏められる。

- ・ フォーマルないしセミフォーマルな貯金¹²、インフォーマルな貸し借りと保険
- ・ 頻繁な少額の貯金、時折発生する高額の支払い・フォーマルないしセミフォーマルな借入れ
- ・ 事業への投資だけでなく、医療費、授業料、葬式、結婚式、稀に結婚持参金

そして、次のような特徴が見られた

- 貧困国において貧しいということは収入が低いだけではなくて変動が激しく予測できないということを意味する。家族の収入が平均レベル（例えば 2ドル/1人 /1日）としても、平均あたりの生活の不安定性そのものが、貧しい者にお金の管理を工夫しなければならないことを常に強いる。今日は1ドル、明日4ドル収入があり、その次の日は無収入、しかし毎日食べものをテーブルに置く必要があるならば、また収入と支出のミスマッチをなくすためには、借りて同時に貯蓄するような複雑なパターンに係わるようになる。いわば必要に迫られて、貧しい人々は、金持ちより複雑な金融戦略を展開する。
- 多くの家庭で、友人や親族を相手とするインフォーマルな融資や借り入れを行い、他方セミフォーマルなマイクロファイナンスを巧みに活用する。
- 地元のマネーガード³による貯蓄、保険クラブ（南アフリカの埋葬保険⁴のような）への参加、ツケで地元の小売店主から食料雑貨を買う。
- 貸金業者は、夫を失ったばかりの女性には債務を免除して女性の生存リスクの一部を吸収する等の社会的判断を行うことがある。

¹ セミフォーマルとは、規制当局により預貯金業務が認められている銀行以外の機関に口座を開設して行う貯金を指し、インフォーマルなものと区別して捉えている。

² バングラデシュではマイクロファイナンスはセミフォーマルと見なされ、本調査では区分掲記されている。

³ 貯蓄の安全な保管場所を探している人や、後日ある目的で使うまでお金を取っておきたいという人から現金を預かるインフォーマルな仕組み。

⁴ 社会慣行上家族の葬儀・埋葬に極めて高額を消費する南アフリカでは、貧困家庭においてもインフォーマルな埋葬保険に加入して保険金を支払い葬儀の際の費用を賄う。

- 地域社会での人的関係を相互に活用しながら、驚くほど多様な金融手法を駆使している。
- しかし、インフォーマル金融（知人や肉親との間の（無利子を含む）貸借・預け金・回転型貯蓄信用講⁵・マネーガード等）は、事故その他による契約不履行のリスクが高いことは容易に想定できる。
- インフォーマル金融は（無利息のものを除いて）高金利であっても、貧困者の利用は非常に短い期間に集中しており、彼らは金利としてではなく料金ないし手数料という感覚で利用している。
- 金融の規模や制度を反映した信頼性も金融手段の選択に大きな役割を担っている。□マイクロファイナンス機関であれば、例えば「17週間支払いを継続できたら新しいローンを得る資格がえられる」と言って、その通り実行できる安定した構造を備えている。
- 柔軟なインフォーマルサービスとともに、貧しい人々は、信頼性に優れるマイクロファイナンス機関が柔軟で利便性の高い商品やサービスを提供出来るなら、金融サービスのポートフォリオに占めるマイクロファイナンスの比率を高めるであろう。

本書では次に、古いタイプの金融商品やサービスからの脱却を目指して取り組んだグラミン銀行の改革に焦点を当てて、マイクロファイナンスが貧困者の金融アクセスにどれだけ関わられるのか、可能性を探る。

グラミンII

グラミン銀行は、1990年代後半からの融資返済率低下の改善策として、永年指摘されてきた運営の「硬直性」を取り除くために、貸付だけでなく貯蓄関連商品の改良をすすめて顧客が取引の幅を広げやすくする、いわゆる「グラミンII改革」を2001年に実施した。旧来のマイクロクレジット（いわゆるグラミン・クラシック）では、原則は貸し出し期間1年で毎週の元利返済というものであった。グラミンIIではグループの連帯保証制度を撤廃し、貯金はいつでも引出すことができ、「年金」貯蓄という新商品も導入された。ローンは、「上限」の枠として実行されて、1年ローンの返済の途中であっても上限枠までであれば何時でも繰り返して借入れが可能となった。

マイクロファイナンスの発展に強く期待する著者達は、2002年から2005年にかけて「グラミンIIダイアリー」と名付けたプロジェクトを実施して、改革の定着と進展状況の調査を行い、調査の結果を踏まえて以下のような指摘をした。

- ・ 1970年代の発展の原動力であった毎週のセンターミーティングは停滞気味で、貴重な時間を費やしているにも拘らずプライバシーが損なわれており、顧客の個別のニーズが認められにくい。メンバー達は可能なら出席をスキップして、早く払うべきものだけ払いたいと思っている。
- ・ 女性中心で活動することは男女の不均衡を是正する試みとして始まったが、男性が貢献している部分を評価しておらず、顧客にする努力を怠っている。

⁵ Rotating Savings and Credit Association (RoSCA) は貯蓄クラブの一種で、全メンバーが每期（たとえば毎月）同じ額を拠出し、その期に集まった資金の全額がある一人のメンバーに与えられることになっている。これを全員が受け取るまで繰り返す。

Fincl.sg

- ・ 連帯保証を捨てたと言う。しかし、ローンの返済不履行を恐れる現場のスタッフは形を変えて強要し続けている。
- ・ 返済条件と返済日程を柔軟にしようと試みながらも、大部分のローンが旧来の期間一年の元利均等の毎週返済で、期限前返済ができないものとなっている。
- ・ 大抵の顧客は、前のローンを返済してもすぐに新たなローンを借り入れるように圧力をかけられている。

そして、以下のように総括した。

- 「グラミンII」の試みは、旧来のマイクロファイナンスの概念を打破しようとする画期的な取り組みであり、他のアジアの国々のマイクロファイナンスに大きなインパクトを与えつつある。今後新たな技術が付加されるなら、より広く世界中に伝搬する可能性がある。
- しかし、貧困者が必要とするものと彼らが得られるものの間には隔たりが常にある。

おわりに

本書は、以下の3点を全編を通じて実証的に説いたことで画期的と考える。

- ① 「貧困層はお金の管理能力が低く、貯めることなど出来ないし、将来に備えることも無くその日暮らしをしているに過ぎない、彼らは単純な生活・生計を送っているから、金融商品も単純・均一・低品質なもので十分だ」と言った通念を打ち砕いた。
- ② ファイナンシャル・ダイアリーという手法を使って、貧困層の生活に深く食い込む(寄りそう)ことにより、能力が高いと勝手に思い込んでいる我々が学ぶことの方がむしろ多いことを明らかにした。
- ③ 貧困層がインフォーマルな世界からフォーマルな世界に入れるように、商品・サービスの側を改善することによって、顧客とサービス供給者の両方が大きな利益を得る可能性が高い。

本書は、世界の人口の半数以上を占める貧しい人々は単に事業資金を求めているのではなく、生活を維持するために必要な金融サービス、すなわち柔軟で信頼できるフォーマルな金融システムへのアクセスを必要としていることを示し、それこそが貧困削減の筋道だと主張している。フォーマルな金融システムにアクセスできない30億人近い人々が、適切なコストで簡便に、尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスできること、すなわちファイナンシャル・インクルージョンの重要性を実証的に示し、その後の途上国での金融・開発政策や研究手法に及ぼした影響は計り知れないものがある。

ファイナンシャル・インクルージョンを促進するには、既存のマイクロファイナンスの発展を待てば良いのか、新たな金融形態の出現を待たなければならないのか、あるいは先進国の金融機関にはノウハウや技術が既に蓄積されているのであろうか。本書のファイナンシャル・ダイアリーに参加した貧しい人達が積み上げているポートフォリオから学ぶことはまだまだ多い。

Fincl.sg

参考ウェブサイト

<http://www.portfoliosofthepoor.com>

<http://www.thepoorandtheirmoney.com>

<http://www.financialdiaries.com>